

桜井章一著
Shoichi Sakurai

みつともない男に
ならない生き方

Forest
2545
Shinryo

「みつともない男」とはどういう男か。

読者のあなたが昭和世代なら、「みつともないからやめなさい」と母親にとがめられた経験が誰しもあるだろう。

一昔前であれば、「おしゃべりな男」はみつともなかった。男は寡黙であることが美德だったのである。

しかし、時代は変わった。働く男の誰もが、饒舌なセールストーク、巧みなビジネストークを我が物にしようと、「ビジネス書」と呼ばれるジャンルの書籍を漁っている。

この世は常に変化している。

まえがき

政治、経済、文化、風俗……ひとつとして定まったものはない。人間の心も同様である。まるで振り子のように、右に振れたと思ったら、左に振れて定まることがない。そして、人は定められた安心を求めて苦悩し、もがく。ときに「みっともないこと」もしてしまうのが人間という存在である。

私利私欲を肥やす政治家

金の亡者と化したビジネスエリート

不道德な行為を犯す教師

ケチな不正行為で捕まる役人

これはわかりやすいケースだろう。ごく普通の一般のひとびとに置き換えても、な
 が「みっともない」のか、容易に想像がつくはずだ。

なにも「聖人になれ」と言っているわけではない。

私は麻雀の世界で生きてきた人間だ。

いわばアウトローである。

私のような人間からすれば、既成概念に毒された「常識」から抜け出せずに、「画
 的な生き方をする人間こそ、みっともない。

まずは世の中を疑うことである。この世のルールに盲目的に従わないことだ。
 しょせん、世の中の常識は心を不安定にするだけだ。知識や技術はいらない。定め
 られない人生の道を歩む時、自らに知恵と感覚の鋭さが備わってくる。

本書で語った内容はひとつの生き方のモデルにすぎない。

好きなように読んでもらい、取り入れたいところは盗んでもらい、「バカなことを
 言っているな」と思えば、笑い飛ばしてくれて構わない。

あなたの人生は、あなただけに許された、自由な人生なのだ。

まえがき

3

第1章 “自分”に縛られない生き方

13

お金 お金を損得勘定でとらえるな

14

損得勘定 一銭の得にもならないことをする

17

成功 成功は大きければ大きいほど危うい

20

数字 具体的な目標なんて宝くじみたいなもの

23

オンとオフ 人生を「オン」と「オフ」で分けない

28

力 ぎゅっとつかまらずにそっと触れる

32

努力 努力とプライドを捨てる

35

第2章 “現実社会”を疑う生き方

39

リスク 年代にかかわらずリスクはつねに存在する

40

苦勞 リスクを楽しみ、面白がる

43

答え 世の中に確証のあるものはないと気づく

47

思い込み 「いいこと病」がはびこる世の中を疑う

50

善意 心の偏りが病気を生む

53

あきらめ 「あきらめない」という考え方をやめる

56

表と裏 世の中の表と裏に思いをはせる

60

勝ち負け 勝つだけではない、平たい生き方

63

知識と情報 詰め込んだものを捨ててシンプルに生きる

66

時代と流行 技術や流行を追い求めない

69

感覚 古い感覚が出る瞬間に大切に

72

感性 遊びを通して感性を取り戻す

76

攻撃性	攻撃と防御のバランスを保つ……………	80
評価	見えない部分に気づくかどうかは己の力次第……………	84
能力	能力ではなく、その人の「地」で判断する……………	87
上司と部下	かわいいかどうかで人を見れば仕事は楽しくなる……………	90
叱る	叱るといふ行為に現れる攻撃性に気づく……………	93
ルール	他人との距離を縮めるためにルールを破ってみる……………	96
マニュアル	誰かのためにマニュアルを壊すことも必要……………	100
常識	たまには常識から逸脱する……………	103
仲間	「友人」ではなく「仲間」をつくる……………	106
つながり	チンピラに絡まれている他人を「感覚」で助ける……………	109
波長	自分の考えを捨て、相手の波長に合わせる……………	113
プライド	大人のプライドを捨ててバカになる……………	116

生命	子どもの脳に宿る人間の根源……………	120
子どもの感性	子どもに自分と同じ「既製服」を着せるな……………	123
しつけ	既成の価値観は親子を腐らせる……………	126
遊び	生命に対して本気で向かいあう……………	129
子育て	仕事を理由に子どもの「旬」を逃していないか……………	132
体力	しなやかな動きは体力を必要としない……………	136
しなやかさ	物事の原点、過去に戻って感覚を取り戻す……………	138
動き	心の動きは体の動きにすべて現れる……………	142
変化	体をやわらかくして、変化に身を任せる……………	145
治癒力	トレーニングでは身につかない体の使い方……………	148
親	親の面倒をみることができるとありがたさ……………	151
死	頭の中が固まっていれば死んでいるのと同じ……………	154

死の不安 死を時間の流れでとらえると不安が消える……………157

第5章 人生を楽にする“自然流”の生き方……………159

自分 自分らしさを取り戻すには「既製服」を脱ぐしかない……………160

地 自分にしかない「地」を出す……………163

さらけ出す 自分ではなかなか気づかない「本当の自分の色」……………166

恐怖心 恐怖心を遊び心に転換させる……………169

コンプレックス コンプレックスを捨て、ハングリー精神を持つ……………174

ハングリー精神 勝つことが目的のハングリー精神は捨て去れ……………178

恨み 裏切りや憎しみは、すべて「変化」と受けとめる……………181

悪口 あなたの生きざまに人は判断を下す……………184

言葉 ごまかしの言葉なら、言葉などないほうがいい……………188

弱点 弱点や悪い部分があるあなたの生きざまになる……………192

あとまわし なんでもあとまわしにする人は物事の「匂」を逃す……………196

学び できる人から学ぶことだけが学びではない……………199

根源 世の中の根源は損得で成り立っていない……………204

陽気 人生最後は陽気に生きるしかない……………207

フォーマットデザイン panix (斎藤啓一)

カバー・本文デザイン 河村誠

DTP 株式会社キヤップス

扉写真 北村泰弘

編集協力 小暮周吾

第1章

“自分”に
縛られない生き方

**Don't
Look Back
Keep Laugh**

& GO

Shoichi Sakurai



お金を損得勘定で とらえるな

世の中、金がすべて。今はそんな時代になっている。

とくに子どもにお金がかかる、親の世話にお金がかかる、家のローンも残っているなど、お金の心配をしたらきりがないだろう。

若い時分はお金がないから、そんな心配をしても仕方がないと思って生きられる。

しかし、いい年をしてお金がなければ、今の生活も維持できないだろう。

それゆえに、人はいくつになってもお金の心配から抜け出せない。

人間の欲がいつまでたつてもなくならないことを象徴するのが、このお金である。

私はお金に困ったことはないが、そうとってお金に執着していない。得たお金をこれだけ投資すればこれだけ得するだとか、これは損するからお金を出さないだとか

いうように考えてお金を使うということをしなない。

とくに、**親が子どもにお金をかける場合、それが自分たちにとって有効なのか、子どもにとって価値があるものなのかという損得感情が働いている。**

昔私は、娘の一人が海外留学をしたいというので、あれこれ考えずにお金を出した。ふつう親は留学させれば帰ってきていい職業につくための足しになるとか、英語が話せてそれを生かせる仕事につけるから留学に賛成だと考える。

しかし、私の娘は留学から帰ってきたらすぐに結婚して、ふつうの専業主婦になった。常識で考えれば、留学までさせて仕事にも役に立たないままお金も稼がずに結婚してしまうなんて、と留学させたことを損に思うだろう。

しかし、留学は娘にとつても私にとつても良かったと思っている。

なぜならば、娘が行きたいといつて出したお金に、私が損得勘定を頭に入れて考えていたら、娘が留学から帰ってすぐに結婚するなどということ認めることができなかつただろう。しかし、結婚しても父親のことを大切に思ってくれる娘の姿は変わらない。

だから、それでいい。お金を損得で考えると、必ず得になるような考えが働き、得にならないとわかったらなんとかしようともがく。私は年を取ってからもがく姿は見苦しいと思っているし、もともとお金がすべてなど思っていないから、お金に関してもがくこともない。

お金の欲は捨て去ったほうがいい。不老不死が幻想であるように、錬金術もまた幻想にすぎないのだ。そのことに気づくだけでも、お金への執着が少しはなくなってくるのではないだろうか。

損得勘定

「銭の得にもならない
ことをする

多くの人が、お金のために生きている。

お金を得るための仕事だからしかたなくやろうとか、お金が儲かるからこのビジネスをしようとか、経済的な豊かさが幸せになることだと勘違いしている。それは、すべて経済と直結しないことは、意味のないことのように教えられているからだ。

しかし、だからこそ逆に、**経済とは無縁に動ける分野を自分の中に持つことを勧めたい。**

これはボランティアをやれというのとは違う。もちろん趣味でもない。

趣味もやはり自分の嗜好が入るために損得感情が働いてしまう。ボランティアでもない、趣味でもない、とにかくお金にならないことをやってみること。